



いかざき 大風合戦

主催 いかざき大風合戦実行委員会
内子町・愛媛新聞社

五月五日 雨天時翌日曜日
内子町五十崎 豊秋河原

うちこ議会だより

もくじ

平成28年3月定例会

- ◎平成28年度予算・・・・・・・・・・2
- ◎平成27年度補正予算・・・・・・・・・・5
- ◎議決結果・意見書・・・・・・・・・・6～7
- ◎一般質問・・・・・・・・・・8～14
- ◎委員会報告・・・・・・・・・・15, 18～19
- ◎新有権者の声・傍聴者の声・・・・17

vol.17

平成28年5月発行

新年度予算審議!!

中学校卒業までの医療費無料化

5,499万円

中学生無料化により735万円を上積み。
県補助金は6才までが対象で960万円、
町財源4,539万円



保育園待機児童ゼロ!!

3億4,507万円

社会福祉協議会立保育園 2億8,747万円
(内子、五城、大瀬、くるみ)

内子町立こばと保育園 5,760万円



えひめいやしの南予博

1,571万円

えひめいやしの南予博2016実行委員会へ1,121万円、内子町実行委員会へ450万円
内子町での地域コアイベントとして、河村バンド復興支援コンサート、竹下景子氏と文楽出演者との対談講演会、巡回バスの実験、時代祭りなどの事業が計画されています。

農業施設補助金

1,000万円

ビニールハウスやぶどう雨除け施設、果樹棚などの施設補助、補助率50%、限度額75万円
昨年度実績 27箇所、総事業費2,836万円

避難所、備蓄倉庫を新築

1,998万円

大瀬小学校体育館裏手に避難所を新築。
大瀬自治センターと併用し、階段利用が不便な方を対象とします。

老朽危険空き家除却事業

400万円

対象となる空き家の所有者に除却費用の一部を補助、補助率80%、限度額80万円



予算決算特別委員会

からり橋の改修など

524万円

からり橋補修工事238万円
駐車場補修工事286万円

ごみ処理費用

2億8,634万円

クリーンセンター17年目。1号、2号炉の点検整備、施設維持のため改修工事に8,666万円



内子町クリーンセンター

町産品

販路開拓支援助成金

300万円

国内外への販路開拓経費の1/2を助成、限度額50万円。昨年度実績、台湾、ミラノ、スイスで各1回。100万円の助成。

小田高校への通学 バス定期代を補助

135万円

1か月定期券13,200円のうち1/3の4,400円を補助します。

小田高校振興対策連絡協議会からの補助2,500円を合わせると、バス代負担は月6,300円となります。

えひめ国体リハーサル大会開催 国体準備経費 9,211万円

施設整備も完了し、ライフル射撃競技リハーサル大会を9月に実施。



10m射撃場



50m射撃場

内子町議会3月定例会

平成28年度当初予算

148億1,400万円

一般会計89億3,000万円

特別会計58億8,400万円

～「選択と集中」により健全財政を最優先～

重要施策

「町の経済力をつける」 「安全・安心のまちづくり」
「小規模高齢化集落対策」に積極的に取り組む！

3月定例会が3月3日に招集され、18日までの16日間の会期で開催しました。

第1日目に、町長の28年度施政方針を受け、6議員が一般質問を行い、総合計画や保育行政などを取りあげ、町政をただしました。継続審査中の請願2件の採決ののち、3件の町長専決処分の報告を受理しました。

2日目には、条例の制定・改正18件、指定管理者の指定1件、議決を要する計画2件、補正予算10件、当初予算8件の39件の提案を受け、質疑の後、常任委員会に条例、補正予算など27議案の審査を、予算決算特別委員会に新年度当初予算8議案の審査をそれぞれ付託しました。

3日目以降に、各常任委員会を2日間、予算決算特別委員会を3日間開き、各議案を審査しました。

最終日に、各委員長からの審査報告を受け、39議案を原案どおり可決し、追加提案された新教育長の人事案件に同意しました。委員会発議による意見書を議決するとともに、請願2件を継続審査とし、閉会中の事務調査を許可して閉会しました。

なお、今期定例会本会議での傍聴者は37人でした。

【人事案件】

新教育長に井上淳一自治・学習課長を任命することに同意。

◆一般会計補正予算（第4号）

基金取り崩しから積立へ！

◎総額1億9,950万7千円を減額し、
105億7,247万5千円に。

◎一般財源の増額により、財政調整基金や公共施設整備基金、一般廃棄物施設維持管理基金などからの繰入を取り止め、公共施設整備基金へ1億3,320万円を積立。
27年度末基金予定残高は55億円。

【主な基金】	
財政調整基金	10億8,862万円
減債基金	9億1,476万円
地域福祉基金	5億1,733万円
公共施設整備基金	17億9,348万円

◆一般会計補正予算（第5号）

産業建設厚生常任委員会では否決、
本会議では賛成多数により可決！

◎国の交付金事業、1億4,323万3千円を増額補正し、総額107億1,570万7千円に。

- ・臨時福祉給付金、65歳以上の年金生活者等
3,391人に3万円給付！
1億173万円
- ・行政情報セキュリティ強化対策 1,695万円

問 全額国の交付金でないのはなぜか。
答 補助限度上限を要求した。町の情報セキュリティは町が行うべきもので、全額補助とはならない。
問 マイナンバーが行われなくても、今回のセキュリティ対策は必要か。
答 必要ない。今回は、より高いセキュリティ対策を行う。

- ・地方創生加速化交付金！林業6次産業に
2,075万円
- 地域商社設立のための調査費 623万円
- 古民家等の改修、増築を図るため、建築基準法の適用除外を認める仕組みの推進費 468万円
- 著名建築家による「内子ならではの家」設計費用 984万円

【反対意見】
林業の6次産業化は大切であるが、1次産業として木材が売れることが重要である。1年間調査してき

たことを再度確認し、慎重に審議し決定すべきであり、内子町の林業の活性化及び地場産業の育成を見据えた具体的なより成果の出る事業への見直しを検討すべきと考える。この事業内容では認めるわけにはいかない。実現できるとは思わない。

【賛成意見】
地元の大工さんや建築士の意見も聞いたうえで計画している。期待感もある、新たな形での取り組みも必要である。



28年第83回3月議会定例会 議決結果

◆賛否の分かれた議案

○は賛成 ×は反対

議案番号	議 案 名	久保 美博	森永 和夫	菊地 幸雄	泉 浩壽	大木 雄雄	山本 徹	池田 洋助	山上 芳子	才野 俊夫	下野 安彦	林 博	山崎 正史	寺岡 保	中田 厚寛	宮岡 徳男	議決 結果
議案11号	内子町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	欠	—	○	○	○	×	○	○	○	×	可決
第23号	平成27年度内子町一般会計補正予算(第5号)	○	×	○	○	○	欠	—	○	○	○	○	○	○	○	×	可決
第32号	平成28年度内子町一般会計予算	○	○	○	○	○	欠	—	○	○	○	×	○	○	○	×	可決
第33号	平成28年度内子町国民健康保険事業特別会計予算	○	○	○	○	○	欠	—	○	○	○	○	○	○	○	×	可決
第34号	平成28年度内子町後期高齢者医療保険事業特別会計予算	○	○	○	○	○	欠	—	○	○	○	○	○	○	○	×	可決
第35号	平成28年度内子町介護保険事業特別会計予算	○	○	○	○	○	欠	—	○	○	○	○	○	○	○	×	可決
第36号	平成28年度内子町介護保険サービス事業特別会計予算	○	○	○	○	○	欠	—	○	○	○	○	○	○	○	×	可決
受理第1号	伊方原発30キロ圏自治体住民の同意がない再稼働の中止を求める意見書に関する請願書	×	○	×	×	×	欠	—	×	○	×	×	×	○	×	○	不採択
受理第2号	最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書の採択を求める請願書	産業建設厚生常任委員会付託															継続 審査
受理第3号	公契約条例の制定による適正賃金・労働条件の確保と地域経済の振興を求める請願	産業建設厚生常任委員会付託															継続 審査

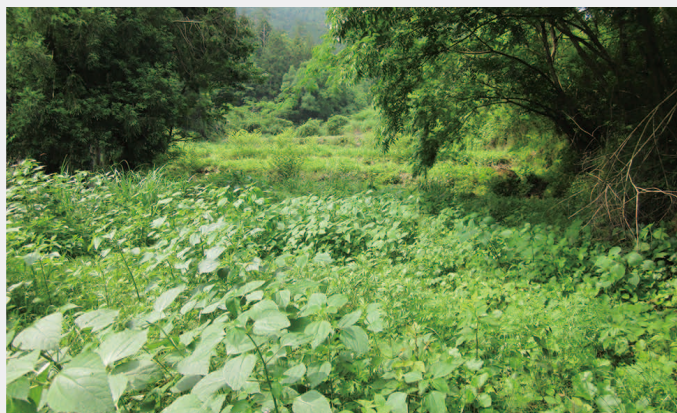
※池田議長は本会議の採決には加わらない。

◆全会一致で可決、同意、承認した議案

- 内子町職員の給与に関する条例等の一部改正
- 内子町特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部改正
- 内子町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正
- 内子町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正
- 内子町非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部改正
- 内子町自家用有償旅客運送条例の一部改正
- 内子町デマンドバスの運行に関する条例の一部改正
- 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定
- 内子町行政不服審査会条例の制定
- 内子町固定資産審査評価委員会条例の一部改正
- 内子町税条例の一部改正
- 内子町子ども医療費助成条例の一部改正
- 内子町注所企業振興金融資産条例の一部改正
- 内子町行政組織条例の一部改正
- 内子町下水道条例の一部改正
- 内子町小田深山観光施設条例の一部改正
- 内子町幼稚園授業料徴収条例の一部改正
- 内子町城の台公園特設ライフル射撃場の指定管理者の指定

- 内子町過疎地域自立促進計画の策定
- 辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定
- 平成27年度内子町一般会計補正予算(第4号)
- 平成27年度内子町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)
- 平成27年度後期高齢者医療保険事業特別会計補正予算(第2号)
- 平成27年度内子町介護保険事業特別会計補正予算(第3号)
- 平成27年度内子町介護保険サービス事業特別会計補正予算(第1号)
- 平成27年度小田高校寄宿舎特別会計補正予算(第1号)
- 平成27年度内子町簡易水道事業特別会計補正予算(第3号)
- 平成27年度内子町公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)
- 平成27年度内子町水道事業会計補正予算(第3号)
- 平成28年度小田高校寄宿舎会計予算
- 平成28年度内子町公共下水道事業特別会計予算
- 平成28年度内子町水道事業会計予算
- 内子町教育委員会教育長の任命

米価下落に対する緊急対策を求める意見書を国へ提出！！



管理されなくなった農地



2014年産に続き、2015年産米価の暴落が深刻である。生産農家に支払われる概算金水準は、2014年産に比べ1,000円程度加算されているものの、政府の発表している米生産費全国平均1万5,259円(60キロ当たり)を大きく下回っており、生産費は賄えず、農家の労働報酬はおろか、肥料代や農機具代など物財費さえカバーできない。こんな価格では、どんな経営努力を講じても経営は維持できず、そのしわ寄せが、大規模経営や集落営農組織等の担い手層の経営を直撃し、規模拡大どころか、借地の返却と離農が同時に進み、耕作放棄地の拡大につながりかねない。しかも、政府が米直接支払交付金を半減し、米価変動補填交付金を廃止したために、稲作農家にとっては二重、三重の経営困難をもたらしている。

政府は、多くの農家や関係者の米価対策を求める世論に押されて融資やコスト削減への助成などを打ち出したが、需給については市場任せを公言し、米価暴落への抜本対策を打ち出さず、さらに政府は2018年産米から生産調整廃止を打ち出しており、需給と価格は一層不安定なものになろうとしている。

このままでは、地域を担う家族経営農家の経営も立ちいかなくなるばかりか、地域経済にも深刻な影響が心配される。

本議会は、生産者の経営を守るとともに、安全な国産米を食べ続けたいという消費者の願いに応えて、米価下落に対する抜本的対策を求めるものである。

以上の趣旨から、次の事項について、強く要請する。

- 1 政府は暴落した米価を回復させるため、備蓄米の緊急的な買い入れや積み増しなど、過剰米処理に向けた緊急対策を講じること。
- 2 米の需給改善のため、主食用米の消費拡大について、効果的な対策を講じること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成28年3月18日

愛媛県内子町議会

町政を問う！

森永 和夫議員

- ・いかざきワンダーランドプロジェクトについて
- ・郷土の画家 上岡美平さんについて
- ・風博物館の利活用について

才野 俊夫議員

- ・引きこもり、ニートや障がい者福祉行政について
- ・監査業務について
- ・内子町諸規程等の改訂見直しについて

宮岡 徳男議員

- ・保育行政について
- ・公契約条例の制定について

山上 芳子議員

- ・いじめ防止の取り組みについて
- ・食品ロス削減対策について

久保 美博議員

- ・プレミアム付商品券の発売検証結果について
- ・小さな拠点づくりについて

下野 安彦議員

- ・子どものインフルエンザ予防接種への費用補助について
- ・今後の学校教育・家庭教育の考え方、地域でのかかわり方について

いかざきワンダーランド・プロジェクトを問う



森永 和夫議員

問 いかざきワンダーランド・プロジェクトにある事業の進捗状況と今後の取り組みは。

町並・地域振興課長

◎小田川リバーサイド・ふれあい事業

「小田川シクロクロス in 内子」「元気わくわく川まつり」などを実施している。住民と来訪者の憩いと交流の場づくりの整備計画を27年度に取りまとめる。

◎風博サバイバル事業

開館当時2万人あった入館者も十分の一となっている。外国人に分かりやすい表示を行うなど展示内容の改善に努めている。

◎大洲和紙の国際ツーリズム支援事業

天神産紙内の看板のリニューアルを行い、QRコードをつける。

多言語化を行った。各種ツアーを企画し、体験・お買い物などプログラムとして組み込んでいく。

◎酒蔵ツーリズム支援事業

27年度には4回実施しており、28年度においても実施していきたい。

◎旧御蔵小学校利活用事業

26年度から地域おこし協力隊を導入して、先進地研修を行い検討している。28年度には、コミュニティ・カフェなど新たな動きが生まれている。



小田川シクロクロス in 内子

問 外国人を五十崎に、と言われているが、具体的な内容は。

町並・地域振興課長

ヨーロッパの富裕層を対象にしたツアーを検討している。

問 風博物館の年間経費は約700万円、地方版総合戦略の中で、31年度入館者目標を3000人としているが、それが達成できても入館料は約70万円、このサバイバル事業は風博の経営状況を改善するのが目的ではないのか。

町並・地域振興課長

経営改善は大きな問題だが、現実的な目標を掲げており、黒字化を目指すことは考えていない。

問 風博物館を美術館としての位置づけをしては。

町並・地域振興課長

美術館としての活用も含め、多様な利用・活用も検討すべきと考えている。

【郷土の画家・上岡美平さん】

問 郷土の画家として数多くの作品を残し、27歳の若さで戦死した上岡美平さんの遺作を内子町の財産として次の世代に引き継いで行くべきと考えるが。

町並・地域振興課長

町の資産として大切に保存し、次の世代に引き継いでい

く。寄贈された作品を紹介していく機会を増やしていきたい。



上岡美平さんの作品

問 来年は美平さん没後80周年を記念した「上岡美平展」が検討されているが、会場や規模は。

町並・地域振興課長

風博物館を会場として、200点を超える収蔵品の記録・検証を行い、美平さんという人やその時代の背景がわかる展示を目指したい。

問 山田清昭さん執筆の美平さんの物語を「広報うちこ」で連載しては。

町長

「広報うちこ」等、媒体を通じて町民の皆さんに知っていただく機会を作っていきたい。

引きこもり、ニートや障がい者対策は



才野 俊夫議員

問 引きこもり・ニート及び障がい者の現状と実態把握は。保健福祉課長

障がい者は約1100名です。障がい者手帳の交付や各種の相談や問い合わせに対応している。引きこもり・ニートで相談を受け保健センターで現在3件の事案にかかわっている。

問 障がい者福祉・就労支援の設置状況と実状、町の予算・サポート内容は。保健福祉課長

町内に「かいと」他2か所の事業所があり22名が、また町外の17か所で29名が就労している。障がい福祉予算は28年度全体で約4億3000万円。使用

料の減免や物品購入等のサポートを実施している。



障がい者地域活動支援センター かいと

問 社会復帰がかなえば、本人家族はもちろん社会的・経済的にも喜ばしいと思うが。町長

ニートを含めハンディを持たれた皆さんの社会復帰が出来る環境を、今後とも積極的に支援したい。

【監査業務について】

問 監査委員の職務及び職責は。代表監査委員

職務は、町行政が公正かつ効率的な財政運営が行われているかチェックすること。職責は、公平で偏りが無く、客観的であること。

問 日頃より心掛けている監査方針は。代表監査委員

「町民の幸せと豊かさ増進」と「町財政の健全性確保」を踏まえ「法令に適正、最小経費で最大効果、透明性の確保」を基準に指導・実施している。



監査委員による監査

問 未然防止の視点で審査会を実施する具体的な事例は。代表監査委員

近年、県内他市町で職員と業者の不祥事が発生した。金額の多寡でなく、重要かつ必要な工事は競争参加審査会に諮るべきと指導した。

【実状にそぐわない規程の改訂・見直しについて】

問 監査委員の指摘を受けた「自治会運営費補助金交付規程」について改善する考えは。自治学習課長

監査委員の指摘を受け、次年度から交付金の積算規定により決定額を各自治会に通知する方式に変更し交付する。

問 長期継続契約のメリットとデメリットを問う。総務課長

メリットは、毎年の契約にかかる事務が軽減される。受注者にとり次年度以降も業務の履行が約束され安定的な経営が確保される。デメリットは耐用年数が短い物件では価格が割高で効率が悪くなる恐れがある。

問 条例・規則・規程等の文言の検証と見直しは。総務課長

所管の担当部署で逐次検証改正を行っているが、今後とも文言等の精査に努める。

新制度による保育行政の変化と影響は



宮岡 徳男議員

問 子ども子育て支援制度への移行から1年が経過したが、内子町の保育行政はどう変化したか。

保健福祉課長

入園要件の緩和や、原則8時間保育から標準時間11時間、短時間8時間保育に分かれ、保護者の労働時間により選択できる。保育時間の延長や土日保育の実施により入園児が急増している。28年度もすべての希望者を受け入れ、標準時間利用が175名、短時間保育が155名である。

問 就労状況の変動による認定の切り替えの状況、延長保育料金への対応は。

保健福祉課長

27年度途中での認定の切り替えは132件あり、申請翌日から即対応している。

30分以内の延長は無料、超過すると30分単位で100円を徴収。5園での1日平均で無料が60名、超過が15名である。

問 内子町の保育料は。

保健福祉課長

合併以来、国の基準の80%を目途に安く積算している。さらに町単独で第3子以降の軽減措置を設けている。



こばと保育園

問 保育士の勤務体制に問題はないか。

保健福祉課長

朝出、中出、遅出という勤務体制をとっており労働時間については問題ない。

問 保育、福祉のサービス産業化に対する町長の所見は。

町長

産業化という言葉には違和感を感じる。ビジネスではなく、日本の将来を背負う子どもたちを支え、育てるため、多様なニーズに応えていくというものが保育の在り方であり、町としてしっかりやっていく。

【公契約条例の制定について】

問 町が発注する契約業務等に従事する労働者の賃金や労働条件を確保し、労働者の生活の安定と地域経済の活性化を図ることを目的とする公契約条例を制定する考えは。

町長

条例により賃金や労働条件を義務付けることにより、地域経済の活性化に寄与するともいわれているが、条例の制定には、

憲法とか地方自治法など法的な課題、論点になっているのも事実である。現在、ダンピング防止のための入札方式や最低制限価格の適切な運用等の措置をおこなっており、即、緊急に条例の制定が必要であるとの認識はしていない。国、県、近隣町村の動向を注視していく。

問 国において公共工事に携わる技能労働者の賃金引き上げが行われたが、追跡調査はしているのか。

建設デザイン課長

県も、また町としても行っていない。国、県と歩調を合わせて行く。

問 町の条例の中できちんと課題として取組むべきで、検討される考えはないか。

町長

憲法にも勤務条件は法律で決めることになっており、労働契約法では労働条件は労使対等の立場で決定とある。法律に抵触しないかという問題があり、国、県の動向を注視したい。そのうえで判断となる。

いじめ防止対策の取組状況は



山上 芳子議員

問 学校での日頃からの地道な未然防止の取り組みが重要と考えるが、本町の「いじめ」の実態は。

学校教育課長

毎月、各学校からいじめに関する調査報告が提出される。平成28年1月までに25件、冷やかしやからかい、悪口などである。

解消された件数が23件で継続して指導等対応しているのが2件という状況である。

問 いじめを許さない学校づくりに全力で取り組んでいただきたい。いじめ問題への取り組みは。

学校教育課長

学校では命や人権を尊重し豊かな心を育てる道徳教育や体験教育などを通して互いに認め合い、支え合う仲間づくりに努めている。

アンケート調査等により早期発見、早期対応を基本としている。

なお、学校で重大事案発生の場合は、民生児童委員、医師、臨床心理士などと連携して対応する体制としている。

問 「児童生徒を守り育てる協議会」開催後の報告は。

学校教育課長

特に重要な部分があれば報告はあるが、報告を受けた事例はない。

問 インターネットの普及は子ども達にも影響を及ぼしていると考えが書き込みによるいじめはないか。

学校教育課長

小中学校では現在のところ聞いていない。

【食品ロス削減対策は】

問 食べ残しや作りすぎた料理、賞味期限切れとなった物が捨てられている「食品ロス」が問題になっている。食品ロス対策の取り組みは。

環境政策室長

本町では「ごみゼロのまちづくり」推進のため、内子町総合計画、内子町環境基本計画で5R（注）の推進を位置づけ、町民への意識啓発に取り組んでいる。

地域においては生ごみを回収し、愛媛たいき農協の内子堆肥センターで堆肥原料として資源循環を行っている。

今後、先進的事例も参考に検討していく。



生ごみの堆肥化作業

問 学校給食の年間の食べ残し発生量は。

学校教育課長

内子学校給食センター小田学校給食センターでは、毎年児童・生徒に嗜好調査をし、味、量、給食の希望を実施してメニュー作成の参考とし、食べ残しが少なくなる工夫をしている。

1年間に直すと0.3キロ以下というような状況で非常に少ない。

（注）5Rとは

- ・リデュース…ゴミになるものを断る
- ・リデュース…ゴミを減らす
- ・リユース…再使用する
- ・リペア…修理して繰り返し使用する
- ・リサイクル…再資源化する



給食センターでの調理

プレミアム商品券の発売検証結果を問う



久保 美博議員

問 プレミアム商品券・消費喚起に繋がったのか。

町並・地域振興課長

「内子わくわく商品券」は、10000円券にして14万4600枚が約3週間で完売するなど好評を博し、使用された枚数14万4340枚で、一定の地域経済活性化への効果はあったと考える。

問 当町に本社機能のない大型店、チェーン店で利用しても地域経済活性化に繋がらないのではないか。

町並・地域振興課長

本社機能のない大型店での利用が半分、町内の各商店で半分という使用状況で、地元商店でも一定の効果があった。



1億4,460万円分発行された商品券

問 生活支援型だけでなく観光、環境エネルギー等と戦略的な経済対策も必要ではないか。

町並・地域振興課長

アンケートによる内容を検討している。

問 28年度においても継続事業か。

町並・地域振興課長

来年度において実施する予定はない。

【小さな拠点づくり】

問 過疎化が進むなか、生活維持のため必要なサービスの確保は。

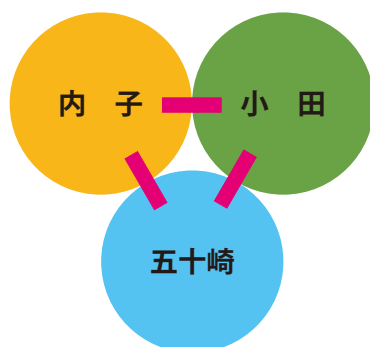
町長

今年の4月から移動手段の確保に町全域を運行するデマンドバスの導入、道の駅等に農産物を搬送する分にもこのバスを利用し、高齢者の皆さん方が農業や林業と生きがいをもって、その地域に住み、地域の人達とコミュニケーションをとりながら頑張つてほしい。また、小田地域においては、済生会小田診療所への医師の派遣、生活習慣病等の講座を地域で開催しており今後、五十崎、内子地区にもこのような場を広げていこうと計画している。

問 小さな拠点のイメージは。

町長

小田を例にすると、小学校を統合、医師も確保するなど、旧町のいろんな仕組みは動かさないで、地域の皆さんが安心できる仕組みが作れたらいいと考えている。何でもかんでも内子の町に集中させるのではなく、分散していくことを考えている。



問 エリアは、合併以前の旧町か。

町長

旧町単位と考えている。

問 仕事、雇用の場につながる合わせ技の考えは。

町長

農業を例にとると、限られた面積で付加価値の高いものを作り、加工にも取り組むことが一つ。しかし、それだけでは生計を維持することが難しいのであれば、プラスアルファのものをそこに加えていく。個人で出来なければ地域で付加価値を高める物を作り、二重、三重の取り組み、仕組みを作っていくことが大切と考えている。

インフルエンザ予防接種への補助は



下野 安彦議員

問 子どもの健やかな成長と子育て世帯の経済的負担を軽減するため、インフルエンザ予防接種の補助の検討をすべきではないか。またその経費はいくらになるか。

町長

季節性インフルエンザの流行は、社会生活に大きな影響を及ぼし、重症化するケースもあることから、先進自治体等の制度を参考に公費助成導入の検討をする。6ヶ月児から15歳までを対象として、1接種につき自己負担が1000円、接種率が7割として試算すると年間約560万円程度の経費になる。

問 実施に向けた具体的な取り組み時期は。

町長

インフルエンザ流行の時期を考えると、6月から9月の定例議会での補正予算にあげられるよう、早く対応したい。



問 学校教育・家庭教育の考え方、地域での関わり方について

町長

教育は学校や地域だけではなく、基本的には家庭教育が大切である。

町長、教育長は、学校教育・家庭教育の考え方、地域教育の考え方をどのように捉え、どのような関わり方が理想であると考えているか。

教育長

学校教育では、教育の出発点である家庭教育において、担い手である親への支援や相談体制の充実が必要だと考えた取り組みをしている。社会教育では自治センター等で親子学級や愛護班活動、人権・同和教育など、子どもから大人まで学習機会の提供を行っている。複雑な社会環境のなか、未来を担う子どもたちの育成のための、政策や対策を講じることが重要と考える。

問 親子が触れ合う時間がありにも少なく、家族で集い、ふれあう休日(家族の日)の設定を提案するがどう考えるか。

教育長

三町が合併して、いろんな行事が増えてきており、全体が休むとなると難しいと思う。確かに、学校も、地域も過剰なくらいになっていると感じる。

町長

全町一斉休日については理想と思えるが調整が難しい。教育は家庭がしっかりと大地に根を下ろすような教育が大切と考える。



全町域デマンドバスへ、 道の駅への貨物輸送も可能に！



4月から満穂地区、立川地区での運行開始により、平成22年度から進めている軒先から病院等を結ぶデマンドバスが町内全域での運行となります。また1コンテナ100円で、「からり」、「せせらぎ」への農産物輸送ができるようになります。これらの条例改正案が提案され、全会一致で可決しました。

消防団員の待遇改善！ ～県下最低から脱出～

消防団員の待遇改善について条例改正案が提案され、賛成多数で可決しました。

合併から見直しがされず、報酬は県下最低となっており、9町で中位となるよう正副団長、正副方面隊長、団員について引き上げ、出動手当を1,800円から大洲市と同額の2,500円に引き上げを行いました。水災火災の場合6時間を超える場合は1,250円を加算します。

【問】待遇改善としながら、全体的な報酬の見直しがされてない。

【答】最低ランクだけ改定する。分団長、部長、班長等は中位にあるので据え置く。

【問】行方不明者の捜索に対する加算はないのか。

【答】今後検討する。

【反対意見】

団員の待遇改善より、県内での立場を維持するという考えが大きい。そのことから反対である。

【賛成意見】

消防団からの要望でなく、町からの改善提案である。行方不明者捜索の加算は検討するとのことであり、賛成である。

幼稚園授業料 第3子から無料へ！

新年度から、多子世帯・ひとり親世帯の幼稚園授業料の負担を軽減する内容の条例改正案が提案され、全会一致で可決しました。

改正内容は、町民税所得割課税額が77,100円以下で、ひとり親世帯、在宅障がい児(者)のいる世帯は、第1子を半額の2,500円に、第2子から無料、他の世帯は第2子を半額、第3子から無料とするものです。

五十崎幼稚園



中学校卒業まで医療費無料化 可決！

平成28年4月診療分から、中学校卒業までの子ども医療費負担が無料になります。

平成24年4月から小学校卒業までを無料に、また27年度から中学生の入院を無料としています。今回の条例改正により、中学校卒業までの子ども医療費（通院・入院）について無料化となります。

この医療費無料化は、平成23年9月全員協議会

にて全会一致で決議し、町に実施を求めてきました。平成23年12月議会で「子ども医療費助成制度の実施を求める意見書」を国に提出し、平成25年3月議会から7回にわたり一般質問で、中学校卒業までの無料化を求めてきました。

県内では12市町が中学校卒業（鬼北町は高校卒業）まで無料化となる予定です。

【議会での一般質問】

25年3月議会 下野安彦議員
医療費無料化を中学校卒業まで拡大する考えはないか。

25年6月議会 大木 雄議員、宮岡徳男議員
早期実施が町民の要望であり決断の時期ではないか。

26年3月議会 森永和夫議員、才野俊夫議員
18歳まで医療費無料化を実施し、若者定住・移住促進を図るべき。

26年12月議会 宮岡徳男議員
中学生の入院の無料化に加え、通院についての無料化も決断すべき。

27年3月議会 才野俊夫議員
子育て支援事業と少子化対策について、今後の計画は。

27年12月議会 才野俊夫議員
他の市町でも18歳まで医療費無料化が発表されている、内子町の方針は。

28年3月議会
28年4月から、中学校卒業まで、子ども医療費を無料にする条例改正案が提出され、全会一致で可決した。

【町の答弁】

400万円の財源が必要。小学生の無料化による医療費の推移を検証し、財政状況を総合的に勘案し、引続き検討する。

制度は作れるが持続的に維持していく財源の問題がある。総合的に判断していく。検討中である。

小学生無料化2年目で医療費が増加している。国保会計の税負担考えると18歳までの無料化はできない。国保制度の安定を図っていくことが大事である。

学校耐震化の目途がたった。消費税等による環境を整えなるべく早くできるよう努力していきたい。

全体的な医療費の伸びを見ながら判断する。国保税が上がることにもなり慎重に検討していく。

町民のニーズを踏まえながら、財政状況も考え適切に判断していく。

消費税アップに伴う地方消費税交付金の社会保障財源分が、26年度の3,215万円から1億3,824万円に大幅に増加し、無料化の財源に充てることができる。

新有権者の声・傍聴席からひと言

新有権者の声

自分たちの選挙権

小田高等学校3年女子

私は今まで選挙について深く考えたことはありませんでした。なぜなら、自分にとって選挙はまだ数年先のことだと思っていたし、まだ政治について分からないことも多く、あまり関心がなかったからです。

しかし、満十八歳で有権者になるという今回の法改正により、私たちは近い将来選挙に行くことになります。政治に私たち若年層の意見が反映されることになるので、若い世代の投票率が上がるのが期待されます。獲得した選挙権を無駄にしないようにすることが大切だと考えます。

だから私は、日本の政治についてもっと知らなければならぬと痛感しています。すでに学校の授業で選挙について少し学びましたが、さらに自らが積極的に様々な知識を身につけ、自分が社会の一員であるという自覚を持ち、責任ある行動が取れるような有権者になりたいと思います。

私たちに出来ること

小田高等学校3年男子

私は今まで、ニュースや新聞記事で選挙の話題が出てきても、関心を持つことはほとんどありませんでした。なぜなら、自分一人があれこれと考えても、日本は変わらないと思っていたからです。しかし、今回の選挙権年齢の引き下げにより、私たちも有権者となります。今まで関心がなかった政治について、何も知らないでは済まされなくなりました。今の日本の政治について、知識も関心もない者が選挙に参加するのは、無責任だと考えます。だから、今から政治についてしっかりと学習しようと思います。

昨年度末に、学校の授業で選挙制度について学び、模擬選挙を実施しました。そこで自分が実際に選挙に行ったときに、何を基準に立候補者の中から選出するのかを学びました。選挙を通して、自分の一票で日本が変わる可能性があることも分かりました。

これからの日本社会をより良くするために私は自分の意思をしっかり伝えられる有権者になりたいと思います。



傍聴席からひと言！



「議会傍聴に思う」

内子町内子 谷野 文子

内子町女性団体連絡協議会は、町内の各女性団体との連絡調整に努め、女性の自立と明るい家庭・地域づくりを目指して活動しています。事業内容の一つに議会傍聴があり、年2回（6月、3月）10数名が参加しております。

町長さんの行政報告に始まり、各議員さんの一般質問を傍聴していますが、私どもの時間に限りがあるため片寄っているのが残念です。

以前、内子町が自治会制度を導入され、軌道に乗ってきたとき、町議さんへの不満が出ていました。しかし、議会を傍聴することで本議会以外にも委員会ごとの議案調査や審査等をされており、町政に対する熱意や努力を知り不安が払拭したことを思い出します。

町長及び町職員の方々の答弁もそつなく誠意があり、良く理解できます。少し残念なことは、そこに女性職員の姿が見られなかったことです。男女共同参画社会づくりが唱えられて久しいのと思い、是非女性の登用を希望します。

3月の定例議会で特に印象深かったのは、監査委員の答弁でした。議員さんの質疑応答が多い中、監査業務についての職務及び監査方針等の答弁が拝聴できたことです。

今後とも、町民一人ひとりを大切に思ってお下さることを願っています。

皆さん傍聴においでや！

次の定例会は

6

月9日(木)
開会の予定です

若い世代との意見交換会を開催！

1月29日、議会改革特別委員会が、若者9名と意見交換会を開催しました。

内子町議会との意見交換会所見

内子町商工会青年部

部長 尾花 慎太郎

1月29日に開催された内子町議会との意見交換会において、商工会青年部を代表し出席させて頂きました。今回は青年農業者協議会やPTA連合会、児童館たけのこクラブなど若い世代が中心の会となりました。

まず、議会の取り組みを説明いただいた後、意見交換を行いました。高齢化問題や後継者問題、子育てや学校教育問題、まちづくりにおける課題など、各団体共に得意分野を活かした活発な意見が飛び交いました。私からは、政策における農商工のバランスについての質問や、今後の議会の方向性や議員定数についての質問をさせて頂きました。



どの意見も若い世代や、子育て世代にとっては重要な課題が多く、これらの意見を議会と共有することが自分たちの住む町をより良くするために必要だと感じました。

今後も定期的に意見交換会を開催すると共に、より多くの住民からの意見を町政に反映していただき、積極的な議会改革を進めていただきたいと願います。

内子児童館たけのこクラブ

入江 初美
岡本 揚子
佐伯 リエ

今回、「議会改革特別委員会」との意見交換会に児童館たけのこクラブの一員として参加させて頂きました。

私たちが、7、8年前傍聴した議会とは質問も答弁も変わっていたり、意見交換により住民の声を聞き、議会改革に取り組んだりしておられることを知ることができました。

話し合いをする中で、いつでも行政の不安や生活の不便さを聞いていただけるという安心感を感じました。

私たちも町政に関心を持つ責任があるなど思い直す良い機会になりました。

ありがとうございました。

議会改革特別委員会 委員長 林 博

地方分権が進む中、地方自治における二元代表制の一翼を担う議会が、町政の監視・チェックに加えて、政策提言を行うことも町政の発展、町民の福祉の向上にとって重要であります。

平成25年6月に設置された当特別委員会は、議会の活性化、住民に開かれた議会を目指し、種々の改革を行っています。さらに検討を進めるため、「内子町議会をどう見ていますか。若い人たちのご意見をお聴かせ下さい。」をテーマとして、各団体の代表

者9名に参加をいただき意見交換会を行いました。

議員定数や報酬、議会改革の取り組みや町政に対する多くの意見や質問をいただきました。町政に関する意見について担当部署に回答を求めましたので、紙面においてご報告させて頂きます。また議会に対する意見は、今後の議会改革や議会活動に生かして、内子町のまちづくりに努めていきたいと思えます。ご参加をいただきました皆様、どうもありがとうございました。

意見交換会での 町民の声に対する 町の回答!!

当日の参加者から、議会や町政に対する多くのご意見をいただきました。それぞれのご意見に対し、議会内で検討し議会活動に活かしてまいります。町政に対するご意見について、担当部署より回答がありましたので、ご報告いたします。

◆小田高校通学バス定期代が高く保護者負担が大きい。

学校教育課・総務課

内子・五十崎の中心部から通学する場合、28年度から、町も定期券の3分の1の額4400円を補助します。小田高校振興対策連絡協議会の補助金2500円を加え、保護者の実負担は6300円と大幅な軽減となります。

なお、バスの運行では、下校に対する増便、部活動に対する土曜日の運行も配慮しています。

◆内子町の人口減少を止める取り組み案を教えてください。

総務課

第2期内子町総合計画において、「稼ぐ力のある内子町」をまっくくりの基本目標に据え、移住促進やI・Uターン者の起業支援、若い世代の出会いや出産・育児・教育支援などにより、町外転出や出生率・数の低下を抑制する取組を進め、2040年には1万2000人規模の町を維持したいと考えています。

◆中学生医療費の無償化はどうなっていますか。

保健福祉課

中学生の入院費は平成27年4月より無償化しており、3件の助成実績でした。中学生の通院費も平成28年4月診療分より無償とします。小学生以上の子どもに対する医療費助成は、町独自の制度です。

◆子どものインフルエンザ、町の助成があれば助かります。

保健福祉課

28年10月からの実施に向けて事業内容等を検討しています。

◆町の農業研修施設が3棟すべて空き家になっています。地元の人でも利用出来るような形になりませんか。

産業振興課

新規就農者研修滞在施設は、Iターン等の新規就農者が町内の研修先で農業技術の習得をする期間滞在する施設です。期間は原則1年間で、入居中に農地や住宅の周旋を受けて就農することとなっています。今までに9世帯が入居し、8世帯が町内に定住し就農しています。

入居資格は、原則60歳未満の町外出身者となっていますが、応募状況をみながら、例えば親元就農されるUターン新規就農者等の受け入れについても検討していきます。

◆焼却場へ段ボールに入れて持っていくと、可燃物は袋に入れて下さいと言われました。

環境政策室

直接ごみを持ち込まれる場合、指定ごみ袋に入っていない場合は100キログラム毎に300円の処分手数料がいります。指定ごみ袋に入っている場合は無料です。直接ごみを持ち

込まれる場合は、指定ごみ袋に入れた方が安く済みますという主旨のアドバイスをさせて頂いたものです。現場での説明不足で真意が伝わっておらず申し訳ありません。

◆組織での会長充て職が20個あり、会議は平日の昼間だけで、仕事を休む必要があるため、夜に開催してほしい。

教育委員会

他の委員さんとの兼ね合いもあります。出来るだけ夜間開催できるよう検討していきます。



モニターの声

◇若者の農業離れの原因を考え、生きていく上で最大の基になる食糧生産にスポットをあててほしい。（70代女性）

◇マイナンバー制度は必要なのか今一つ理解に苦しむ。届いた番号も見えていないが、詐欺に騙されない様にしたいと思う。（70代男性）

◇18歳選挙権が成立され疑問を感じていたが、高校生男女の意見を読ませて頂き、安心した。（40代男性）

◇町内他団体との意見交換会は、とても大切な事で、今後も続けて町政に活かして欲しいと思います。（70代男性）

万 華 鏡



「ねはん祭」写真とるよー！ 撮影：才野 俊夫

小学校の新一年生になる70名が写真に納まり、これから稚児行列に出発します。



桜の散り際 撮影：菊地 幸雄

桜のじゅうたんを見て思い出す。
『花は桜木、人は武士』

編集後記

桜舞い、鯉が泳ぎ風揚がる良い季節になりました。

昨年、議会改革の一環として、町民の意見を聞き、町政に活かしていこうという考えから町民との意見交換会を実施しています。政策提言まで出来る事を願っています。

分かり易く、読みやすい広報を目指して委員一丸となって取り組んでいきます。

（菊地 幸雄）

●議会広報常任委員会

委員長	才野 俊夫
副委員長	森永 和夫
委員	久保 美博
委員	菊地 幸雄
委員	山本 徹
委員	山上 芳子

表紙の写真

森永 和夫

今回は、400年の歴史を誇る「いかざき大風合戦」のポスター（版画家山田清昭さん作）です。清流・小田川を挟んで繰り広げられる町内最大の伝承行事です。

発行／内子町議会

発行責任者／内子町議会議長 池田 洋助

編集／議会広報常任委員会

☎0893(44)2115